

アークフラッシュ施工された老人施設 6年間インフルエンザの発症が報告されておりません

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> **新着施工写真を更新いたしました**

<< 恐ろしい現状の中 >>

北米の医療施設で集団感染が相次ぎ、高齢者を中心に死亡例も増えている強毒型の腸炎細菌が、関東地方と東海地方で過去に発病した患者2人の保存試料から検出されたことが9日、明らかになった。国内で強毒型が確認されたのは初めて。調査した国立感染症研究所は「今後拡大する恐れがある」として、医療関係者に警戒を呼び掛けている。

感染研によると、患者は平成13年に発病した関東地方の30代男性と、17年発病の東海地方の30代女性。北米での問題を受けた最近の調査で判明したものの、感染経路は分かっていない。女性は入院患者だが男性は入院歴がなく、いずれも抗生物質の服用後に発病し、薬の変更などで回復したという

問題の細菌は「クロストリジウム・ディフィシル」。抗生物質による治療で腸の常在菌のバランスが崩れた際に異常に増え、腸炎を起こすことが知られていたが、今回見つかったのは通常のディフィシル菌より多量の毒素を出す変異型で「027型」とも呼ばれる。

2002(平成14)年ごろから米国、カナダで抵抗力が弱った入院患者らの集団感染が相次ぎ、カナダの12病院の調査では、患者1703人中117人が死亡。致死率が約7%と通常より高いことから、米疾病対策センターが注意喚起していた。

欧州でも最近確認され、毒性が強いため入院患者以外にも発病例が出ている。

北米では、強毒型であることに加え、医療現場でよく使われるフルオロキノロン系の多くの抗生物質が効かない耐性菌が広がり、治療の難しさにつながっている。国内の2例の菌を検査したところ、耐性は北米の菌ほどは強くなかった。

抗生物質使用に注意

国立感染症研究所の荒川宜親・細菌第2部長の話 「この菌は培養が難しいこともあり国内の臨床現場での認知度は欧米に比べて低かった。今回検出された菌は幸い、北米の菌ほど抗生物質への耐性は強くなかったが、フルオロキノロン系の抗生物質を多用すると北米と同様に深刻な耐性を招く危険がある。抗生物質は必要な場合に限定して使うことと、しつこい下痢が続く患者に対しては、この菌による感染症も疑い、詳しい検査をすることが重要だ

<< ノロウイルスで死亡 >>

山梨県中央市西花輪の特別養護老人ホーム「田富荘」を運営する社会福祉法人「喜栄会」(渡辺栄喜理事長)は8日、施設内で起きたノロウイルスの集団感染で、入所者の100歳の女性が6日に、感染が原因で発症したとみられる肺炎で死亡したと発表した。女

性のウイルス調査は行われていないが、同法人は医師の診断などから「ノロウイルスによる感染性胃腸炎を発症したらしい」と判断し、「利用者や家族にご迷惑をおかけいたしました」と謝罪した。

同法人によると、女性の死因は誤嚥（えん）性肺炎。診察した医師は胃腸炎による嘔吐（おうと）で出ただ液やたんが肺に入り、肺炎を起こしたとみているという

同施設では2月26日から3月7日にかけて入所者や職員ら37人が発症したが、死亡した女性以外は全員軽症で回復に向かっているという

県によると、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が関連した死亡者は1月の国立病院機構甲府病院での発症者に続き2人目

<< 今度は結核 >>

宮内庁は8日、大膳課の40代の男性職員が活動性結核に感染していたと発表した。同庁は、皇族方への影響はないとみているが、同僚職員への健康診断を行うなど、慎重に推移を見守る方針。

同庁によると、この職員は宮殿の調理場で働き、主に宮殿行事に出す和食を担当している。6日に感染が判明し、都内の病院に入院した。2004年1月にも結核に感染したが、入院や自宅で療養し、05年3月から職場に復帰していたという

<< 鳥インフルエンザ >>

韓国農林省は8日、中西部の忠清南道天安市のアヒル飼育場で毒性の強い鳥インフルエンザウイルスが検出されたと発表した。

韓国では昨年11月以降、各地で鳥インフルエンザが流行しており、今回で7件目。

同省によると、今月6日から突然、産卵率が低下したことを不審に思った飼育場が韓国政府に申告、精密検査を行った結果、感染が確認された。

<< 院内感染の恐怖 >>

北九州市八幡西区の産業医科大学病院（柏村正道院長）は13日、入院患者9人からバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）を検出したと発表した。うち2人は死亡したが、病院は「死亡とVREは無関係」としている。同病院は院内感染の可能性が高いとして、同日から全入院患者約540人を対象に検査を始めた。

病院や市保健福祉局によると、感染していたのは50代から90代の男女8人と同病院で生まれた男児。1月30日に男性患者（80）の採血検査でVREを検出。2月以降の検査で別の8人も保菌が確認された。

最初にVREが検出された80歳男性と、その次に検出された94歳男性はいずれも2月に死亡。死因は出血性ショック死などで、同病院は感染と死亡に因果関係はないとしている。残る7人は現在まで発症していないという

VREは重病の人や高齢者に感染すると、重度の敗血症や腹膜炎を引き起こすことがあるという

<<Uクリーンが新しいパッケージで登場>>



* 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部
笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.com
1号～66号までを配信希望の方はメールにて申込ください。